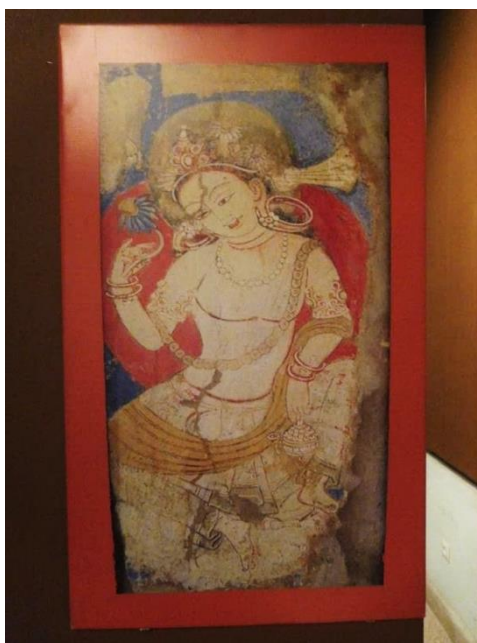


水源禪師法話集 110

(2019 年 4 月 30 日 山梨合宿 4 日目)

2019 年 7 月 10 日

一乗禪の会



目次

水源禪師法話

過去無量の体験を通して完成したお釈迦様	3
無所得の故に高德を得る	4
往無住生往行布施	7
不受色聲香味触法	7
全て幻、本当の事は見えない	9
医療に頼らず病気を治す方法	9
法華経の火宅の話は実際と違う	10
地球は発生と消滅を繰り返す	11
六祖大師＝慧能様の伝説	13
死の直前に涅槃にあげてしまう秘法	15
アラハトを騙し罵った修行僧コカリア	16
修行僧コカリアの過去世	18
法を理解し、人の為に話した高德は計り知れない	20
仏法は世間の常識とは関係がない	21
天界からの教えがいっぱい来ている	22
振り返いた秘伝、サティパターン	23
一番大切な事、欲から離れなければならない	24

水源禪師法話

過去無量の体験を通して完成したお釈迦様

これから圧縮してお話しをするのと、ちょっと重要なポイントをお話しするのと、それから、実際にお釈迦様がどういう風にして、このお経を教え、こういう風にして悟ったという、一つ一つの人生があるわけですね。そういう事の繋がりも観なければ、ただお経を幾ら学んでも慈悲の心が進化して行かなければ、深い教えの意味が受け取れないのです。

日本には東大寺の素晴らしい盧舎那仏、実はお釈迦様の事、お釈迦様はニミッタを教えているから太陽のように光る。この手法は聖書ではインビジブルライト＝目に見えない光と。いう風に繋がっています。

みんなインド、ヒンズー哲学とか非常に懂れて、シャーマニックとかこうやりますけどね。ジャイナ教、ジャイナ教も実は「カースト制度がおかしいのではないか」と見直して出来た事であって。お釈迦様が最初にやったわけではありません。

お釈迦様はその時代の一人の人間として完成したわけではないのです。無量の時間帯を過ぎて、全ての体験を通して。そしてカシャパブツダの後に出られたわけです。

私達が考える、一代でゴールドメダリストになろうとか、こうやれば、ベートーベンになれるとか、西洋の人が言っていたけれど、「前世も音楽家であって、一代では絶対に出来ない」と。という風にドイツの音楽家系のバイオリニストから聞きました。だから、「西洋の考え、一代というのは信じられない」と。「私のお父さんも音楽家で、私もウィーン交響楽団で 5000 人の前で弾いたけれど、今はやらない。タクシードライバーで自由に音楽を弾きます」と言っていました。「私はそれよりも、自由に自分の時間を持って自由に自分の音楽を弾きたい。だから、タクシードライバーで十分。後半年、南国の海の側で暮らす」と。「もう、楽譜も使わない」って。

【参加者】

自分の好きなように奏でる。

【水源師】

という風に精神を求めて、仏国の生まれ出ない方も、非常に仏教に懂れて、私が説明したら、やっぱり究極の所で生きているから、響くわけですね。ショックを受けて、非常に嬉しそうにしていました。私の為にバイオリンを弾いて

くれてね。凄い、なんて言うのかな、王様みたいに座らせてもらって。普通はお金出したって、してくれないのに。ま、そういう事で。

無所得の故に高德を得る

つまり、今まで、本当の意味で法に触れるというのが、なかなか出来ないというのが、私達衆生の人生で。良いものには滅多に出会えない。あると分かって、そこに行ってもなかなか受け取れない。つまり、受け取る器が無い限り、結局、達磨大師様が武帝に「私は 30 万人の比丘にお布施をして、毎日食べさせて、お寺も数知れず造った」と。「丁度、あなたはね、所得の為にやったでしょう？つまり、どのくらいの福を受けるか？と。その途端に台無しだ」と。無所得の故に高德が入るけど、得を得るという事では、最早全て台無しである。ほとんど何も無いと。これは永遠と続いた課題なわけです。お釈迦様も授記を受けたのは、実無所得と。完全に体感したと。これという法は無いと。阿耨多羅三藐三菩提はそれぞれによって獲得出来る。そういう究極だから、そういう情報というものはありません。ただ入口として、12か13までの悟りの道を示します、つまり、偉いお坊さんはソタパナ（預流果）か、又はサタガミ（一來果）までは法を教えるけど、それから先の心は自分で進むしかないのですね。

だから、絶対的な信仰という、絶対的な信仰、アナンダ長老様がその証明で、結局、絶対的に信仰するが故に、アラハト（阿羅漢）に成れなかったわけね、お釈迦様が生きている時に。それが心の障りなるわけです。絶対的な信仰と、それから、サティ（念）、サダ（信）、サティ（念）が加わらなければ、そのバランスが無ければ、アナガミ（不還果）までには成ったけど、アラハトのエリアには到達出来なかった。

最後の土壇場で一夜にして、カーヤヌパッサナーで到達しました。つまり、何を見たかと言ったら、結局、アナンダ様の時は、生と死ではなく、実際にこの生は完全なる幻覚であるという事をカーヤヌパッサナーによって解ったわけね。

その域は、皆さん誰でも持っているという事を、お釈迦様が須菩提長老に、紆余涅槃から無余涅槃に入る直前に、異空間で手渡した極意がこのお経のお話。だから、南伝では信じられないわけです。在り得るわけないと。例えば、阿羅漢ミランダ尊者はキングアショーカの王子様でスリランカに行って、20 年間、石の上に寝たわけです。という風に、王国とか、国とか問題を越えた所にあるからですね。

ところが私達は、「明日どうしよう？これから世界がおかしくなるなあ」と(笑)。実際におかしくなるけれど。これだけ狂ってしまっているけれど。

でもそれを超える、宇宙を全部七宝の宝で埋めても、七福神という言葉があるように、全ての財宝で埋め尽くす大宇宙よりも、それ以上の価値があるという事をお釈迦様がおっしゃっています。私もそう思います。

私達は、こうして一生を終わって幻のように消えて、後は、何が何だか何処に行くのか分からないで、ほとんどの人が死んで行きます。でも昔の人はね、死ぬ事をちゃんと分かっていました。私の小さい時。良い所に行くか、悪い所に行くのかを分かっていた。もう、確定的に分かって。死ぬ前に一所懸命仏様を拜んで(笑)。

だけど、今は、キリスト教の影響、イスラム教の、一神教の影響で神様が何でもやってくれるから大丈夫と。神様を一生懸命信じて、天国と地獄があるわけです。煉獄(purgatorio)という中間もあるけれど。法王ジョン・ポール・セカンドは、前の法話で話したけれど、「心を入れ替えなさい。皆、心を入れ替えなさい。地獄が大きな口を開けて、待っていますよ」と。カソリックの信者に言っているわけです。「全て自己責任ですよ」という事。「私は助ける事は出来ない。幾らお金を積んでも」と。でも、教会に行けば絶対に助けてもらえる。そうじゃない。実際はそうはなっていない。と最高の法王様がそう言っているのだから。

今はもう、全部世の中が狂い始めているから。牧師さんが悪魔祓いをするしかないわけ、エクソシスト。幽霊がどんどん入って来て大変な事になっているから。幾ら教会に行ってもどんどん憑り付かれるから。それをやる行者がもうほとんどいないわけです。あっちもこれ(経典)ばかり読んでいるから。

コロンビアの女性が私の所に来て「どうか助けてくれ！」と。「ただ座っているのにパンツが火のように焼ける」と。カソリック教会に助けてもらいに三日間行ったけれど「もう、来るな」と言われたと。「お前の為に私は死ねないから、これ以上は出来ない」と。という幽霊に憑り付かれて。

こういう話は皆、嘘だと思うけれど、現実にはそうなのです。現実に来て、仕方なく私が、特別な密教の行法で霊を取り払ったけれど。という事も今の密教の行者は知らないはず。どうしてやれば、どういう風にやれば良いか。

だから、そういう霊を持って来られたら困るから、今は絶対に手を付けない。逆にお坊さんがやられるから。力が無いのではなく、力があってもその行法を知らないわけです。つまり、お金の為、地位名誉の為に修行したお坊さんは出来ないのです。だから出来ないという事。

無所得の故にそれが出来る。無所得。どんな栄光を持った人でも、タンハー、アタッチメントが発生するわけですね。そこです。それを、まあ、これから話すけれども。

世間では、それは消えてなくなって、又まったく新しいと思っているでしょ

う？違うのです。何回も何回も何回も繰り返し。飛行機も飛べば、宇宙船も。そういう時空もあるし。無い時空もあるし。全てはただの繰り返し。無量遠劫に。非常に長い時間をかけて。ただ一つ、それをしっかり観るのは、タサガタだけ、ブッダだけ。サンマ・サンブッダサーは、今度は私達にこうやって説明してくれるけれど。ペティカ・ブッダに成れば自分は分かるけれど、人に教えられない。

ただブッダ一人、タサガタで、全ての衆生を救うという。偉大な法を残されて。偉大成るが故に無に近く、知る事が出来ない。でも偉大であるわけ。

超有名であるけれど、それは私達には何一つ得にはならない。彼一人のもの。だから、有名という事は幻想なわけ。実ではない。哲学的になるから、ま、そういう事をあまり言っても、あれだから。



往無住生往行布施

「妙行無住分 第四」という一切に何にも捕らわれないで人生を過ごす。それはどういう事か？昨日、布袋さん、laughing Buddha のお話をしたでしょう？朝、市場に行って、いっぱい袋に品物を入れて、誰が何を必要か、そういう布施をするわけですね。ですから、何処にも住まないで、「往無住生往行布施」これをやったわけです。弥勒菩薩様、朝市場に行って、袋にいっぱい入れて、毎日毎日必要な人に分け与えたわけ。中国はという偉大な高僧を出すわけですね、だから、どうしても西洋から中国に入って来てしまうわけですね。ですから、私達は隣国の中国のおかげで、韓国ももちろんそうだし。大変な栄光を受けているわけです。ベトナムもそうだし、南伝の方はスリランカから入って。だから、東洋に生まれて、仏法の中で生きているという事は、この現代の地上でも、大変な幸せなのですよ。

実際にそういう風にされて、もちろん、そういう音楽を聴いて、花や踊り、美味しい物を食べるとか、そういう布施を受け取らないと。まあ、それが一番有名なカシャパ尊者で、出来るだけ少なく受け取って、不幸な方にいっぱい布施を与えると。逆にいっぱい布施を与えているわけですね。

不受色聲香味触法

不受色聲香味触法の布施、そういう布施を受けとらないという。般若心経では「是故空中 無色無受 想行識 無眼耳鼻舌身意 無色聲香味触法」ここに当たります。つまり、空の世界はこれとは関係ない事だから、物質とかそういう事。だから、そういう物には捕らわれない生き方をする事ですね。

でも、私は食べなきゃ生きて行けないし、私なんか、やっぱり、良い物を食べたいから、店で買った高いから、イタリアではプロシュートという最高級の生ハムがあるのだけれど、やっぱり、その生豚肉の塊を 13kg 買って、塩漬けでイタリアの人から太古の技法で、グレコローマンというのですね。

ギリシャローマン万年、その手法で作るから間違いなく出来ます。本でやったら必ず間違えます。非常に簡単に出来ます。干しハムを作って、一年かかります。熟成させて。そうしたら、塩が甘くなるのですね。カビも青カビと白カビだから、逆に良いものが出来ているわけ。切り方があるのです。

イタリア人の伝統料理というのは凄いいね。その骨のさばき方、取ってちゃんと分けて、いやーそれを作ったのですよ。カナダに来る人はラッキー(笑)。超ラッキー。美味しいですよー。試しに、スーパーで売っている物を買ったら、と

んでもない。半生。これは品物ではない。高いお金出して、ケミカルがいっぱい入って、全然本物とは違う。ま、そういう事で。私はこの生き方に反してね(笑)。美味しい物を作って(笑)。

でも、凄いと思いました。こういう物を食べながら、ちょっと 1 キロあればね、一ヶ月、水さえあれば、旅が出来る。一日薄く一枚か二枚切って、あとは水飲むか恵んでもらうかと。

実際、今から 1400 年前かな、慶州（キョンジュ）に仏国寺というお寺があります。そこで一番有名なのはサクラン、桜。日本では桜（サクラ）でしょう？昔、「サクラン」＝「桜が咲く」と言っていたけど。奈良の大和言葉と韓国の古代の言葉は一緒。妹（イモ）とか妹子（イモコ）とか全部一緒。つまり、今のアカデミアンフレンチとパリジャンフレンチは話が通じないみたいなものです。

そこは非常に有名で、世界遺産登録です。石で作ったお釈迦様があって、国宝で、ガラス張りで、私が最初見た時はなくて、ここ（額）にダイヤモンドが在る。ダイヤモンド。でっかいダイヤモンド。このダイヤモンドを手に入れるのに、韓国のお坊さんの話では、朝鮮人参と松を粉々にして団子を作るのだった。その団子を 30 個作れば、一ヶ月水だけで旅が出来ると。二ヶ月歩けば 60 個、三ヶ月歩けば 100 個位あれば、十分行けるから。

それで、そのダイヤモンドは何処から取って来たかと言えば、ペルシャだった。どうしてペルシャかと。今回カブールに行って分かったけど、サクランから北方を周って、長安からカブールに入って、カブールの人は、ペルシャは隣ですから、イラン。ツーカーで。で、手に入ったと。

そういう風に経典も、北伝の方からずっと来ているわけです。こっちの方は。北伝の方から来た原点は、このお釈迦様が死ぬ前に、お経をスボダナ＝須菩提様に渡して、その素晴らしい恩恵を受けて、経典仏教があるが故に、今度、南伝の方から、追跡出来るわけですね。その通りかどうか。二つが会い、合わせる事が出来るかどうか。お釈迦様は千年、二千年先から見ているわけですね。そりゃ、そうでしょう。だから、下手にお釈迦様があーだこーだと。とんでもない話で、狂人の戯言を話していると本人達が思ってもいない。

結局、昨日も説明したように、一切、そういう僧に、これが私の徳になるとか、そういう事を考えないでお布施した場合には、考える事も出来ない、大宇宙にいっぱい宝が貯まる、それ以上の徳を貰うと。だから、そのように住みなさいと。

全て幻、本当の事は見えない

そして、一切私達があれだ、これだと見えるものは全て妄想、幻で、本当のものは見えない。本当に無いものが本当であると。だから、神様に会った方居ます？西洋で。いない。神はインビジブル。見えない。幻想ではグアダルルーペとか、リオンのマリア様とかファティマのマリア様いっぱい話しが、現象で出て来ますけど、それは仏教も一緒だけど。それは現実的な姿では見えない。現実に見えているものは全てまやかしかであるとお釈迦様が、その通り。

ニュースでも、本当のニュース、新聞で見るのは、実際にその通りかと言ったら、過去 100 年、その通りか文献で調べてみて下さい。ほとんど全部発表している事は嘘。それを一生懸命読んでも何にもならないで、逆に頭がおかしくなってしまう。

50 年前は、この宇宙はモヤ～としたものから出来たと。それが、20～30 年前からビッグバンでドカーンと出来たと。無茶苦茶に変わるわけです。一番大事な所が。

今回は、20～30 年前にケンブリッジ大学の数学者が、この宇宙は一秒間に 100 兆～200 兆の宇宙が重なっていると。数学的にはそれしか見えないと。この人の家系は 200 年続いている数学の家系で、イギリスはそういう所があるわけですね。で、それが確りとこのお経の中にあるわけです。

という事は、仏教を勉強していないわけです。仏教だ、仏教だ、座禅だ、何だかんだと。していないわけ。お坊さんほど、最新鋭の科学をちゃんと分かっていないと使い物にならないと偉いお坊さん方々が言っています。ダライ・ラマ法王様は電子科学と天文学大好きな様です。

医療に頼らず病気を治す方法

そういう事すら、一切言わない。そういう事を言わない限り、一般の方々が御布施を一生懸命して、ありがたや、ありがたやと言う。勉強していないから、今、日本で大変な病気の災いが起こっているけど、それに対する療法も何も言わない。それはちゃんとある。お釈迦様がちゃんと言っています。何も言わない。私がミャンマーに入る 1 年前から、自分のおしっこを飲んで、大腸菌を全部整理してから、大腸菌は雑草のように生え繋るから、結局、ガンになりますね。弱い大腸菌がいっぱい伸びて、強い大腸菌が出られないと。弱い大腸菌を全部整理した時に、新しい元気な大腸菌が出て来られるから、一切の大腸の汚物を綺麗に処理して。ところが、そういう事をしないから、大腸の中に異常大腸菌とか変な物が入って、処理してないから。川の流れがスーと行かない、

溜まると。そこにやっぱり要らない物が発生すると、それで大腸ガンとか大腸ポリープとか、いっぱい。

だから、南伝のお坊さんは皆、おしっこを飲みます。山に入ったらお医者さんは居ない。ジャングルに入っても、カビ。空中に手を突っ込んだら、皮膚がアトピーどころじゃない。ブワーっと焼けるくらい痛い。

だから、それに対処するにはもう、苦くて苦くて、苦い果物を、バリバリ食べている(笑)。だから、蚊に刺されない。その苦さも凄く、身体に良いのですってね、今ごろ。にがりとか。中国の人は、カナダで見たけど、必ずにがりいっぱい食べる。で、私も食べたら、お腹が良いのですよ。調子良いし、こりゃ、良いものだ。

日本にはこの手法はない。苦いものがあまり無いでしょう？特に甘いものが大好きでしょう。何でも甘い、甘い。そうしたら、畑がいっぱい要らない雑草や木が生えたら、畑が良くなならないでしょう？だから、それを刈り取ってくれるわけですね。自分の身体に合った薬なわけです。私達のおしっこの中には、凄い素晴らしい薬がいっぱい入っているわけです。

それを、大手の製薬会社はレディメイドメディスンといって、あなたの身体に合わせた薬を作りますと。高いお金で買わすわけです。いや、それは、自分のおしっこ飲んだら、それでおしまい。

それもね、15年以上は効かない。ところが、15年以内でしっかりやれば、ほとんどの病気は治ると言っています。一番良い例が、龍樹菩薩は7日の命しかなかったわけです。ブラーミンの家系で。お寺に預けて。それで実際は、600年以上の生命体であるから。日本の学者は二人の人物で一世紀と七世紀で同じ名前のナランダ大學長としましたでしょう。

ところが、私がミャンマーで会ったウ・コビタ比丘長老は千五十才に成っているはず。だから、私達が考えている事は、見聞きしている事は、ほとんど幻覚。幻覚の中で生きているから、皆狂うのが当然。ただ幻覚で生きて行かない場合には、瞑想して、こういう偉大な先生、お釈迦様に会って、そして、心から修行して行くしかないわけです。お釈迦様を外して仏教は無いわけです。お釈迦様を外して一切の経典は無いわけです。

法華經の火宅の話は実際と違う

特に有名な、火宅の外は火の海という、有名な法華經の御話しがあるでしょう？お釈迦様がある街を通った時に、長者の町を通ったわけですよ。そうしたら、長者とお話しして、「先生どうですか？元気ですか？」なんて話していたら、奥さんが家の中から飛び出して来て、「家の中が火事です！五、六歳の子供が中

に居て、このままでは焼け死んでしまう！」と言うわけです。

お釈迦様はスーッと裏に周って、こういう窓があるわけね。丸太で出来ているから、「よし、この丸太を皆で壊しなさい」と。で、壊して、「坊や、こっちにおいで～」と。子供はおもちゃで遊んでいたのだけれど、ニッコリ笑う御釈迦様の優しさで、この坊ちゃんが五つか六つか、「はい」と言っ、スーッと出て来て。という所を外しているわけですよ。これはインドからの文献。

こういう事をしてはいけません。長者とお釈迦様の話が入っていない。助けたのはお釈迦様。長者（が助けた）という、それは駄目です。だから、あなたの方が、実際に勉強して修行するしかないわけです。

ま、ここまで言わなくても良いのだけれど。どうせあと二年、ゆっくり山で遊んで、生きていたら、出て来ますから（笑）。

という風に經典に書かれて、鳩摩羅什様の訳、三蔵法師＝玄奘大師様の訳とか違いがあるけれど、それをまた書き換えるのは良くない。

結局、私が言いたいのは、説明しなければならない事がいっぱいあるのだけれど、今日本に来ている、（女片に）兆 秦三蔵仏陀駄婆多訳と。この方は、300 AD（西暦）～400AD。三百～年あたりの訳なわけです。達磨大師様が来る前にこれを訳しているわけです。どういう風に、修行すれば良いか、五印というのは五蘊の事で、正見五蘊皆空の事も書かれています。

ですから、どうしてもこれを明快に分かるには、法随観＝ダンマヌパッサナーの行法をやらなければ、文献では無理。何でもあり。でなければ、これは解読できないようになっている。

一番にダライラマ法王が強調したのは、ここに書いている四大滅、四大というのは、地水火風、これを、悪い蛇のように動く、必ずや崩壊を起こすと經典に書いてある。ダライラマ先生が「君達は若いから、この四大をしっかりと観てくれ」と。密教のチベット仏教だけではない、大乘でもちゃんと四大を書いている。

それが、日本ではあまり聞いた事が無い。この重要な事。という事は、經典はいっぱいあるけれど、それが本当の經典かどうか分からない。というのは分かった人＝修行した人が書いたとは限らないから。今、初めてこういう文献が出て来て、私が説明するでしょう？じゃあ、その方は一体何と説明しますか？「ああ、あれは嘘だ」とかまた言うのでしょうかね。それがオチ。そういう事ばかり、過去永遠と私達人間はやってきたわけです。永遠とやってきた。

地球は発生と消滅を繰り返す

で、その永遠とやってきたというお話が、お釈迦様の過去の文献、わたしは

こういう風にして生きましたとか、自分の過去世。これはもう、私達の時空を超えるような時空だけど、バナラーシ (Varanasi) という、これは Banarasi で書くけど、英語では V。Victory の V になります。そういう細かい所に捕らわれて、本題を忘れてしまう。

これはスリランカで頂いた経典で、ジャータカ物語、お釈迦様の過去世、凄い事を書いていますよ。ところが、この時空は地球が発生して消滅して、発生して消滅して、発生して消滅するけど、同じ事が発生してしまう。ところが、私達は「この地球が滅びたら、もう二度と来ない」ところが、またポンと出るわけです。

という事を、不思議な事に、アメリカの今、話題になっている特斯拉。アインシュタインと並ぶ、超高名な方で、全ての無線とかその原理を作ったのは彼なのです。ラジオとか全て。

彼の 100 年前の文献を見たら、一番驚いたのは、「この地球は不思議なもので、発生したり、消滅する。消滅してはまた現れる」と。だから、南伝のお坊さんは「appear～♪disappear～♪」という事を英語で言うはず。必ず、そこ。同じ事。経典を読んでいるから「appear～♪disappear～♪」。特斯拉は 100 年前にその事をちゃんと。超サイエンス。結局、フリーエナジーで飛行機も飛ばすし。その電気飛行機で。その時に、無線で船を動かして。

100 年前ですよ。その時に、直流はあったけど、交流は無かった。彼が交流を作って。水が下から上がって降りて上がって降りるという考えは無い。水は必ず上から落ちるという 考えしかないし、それしか見えないけれど、彼はそういう過去のインフォメーションか他から来たか分からないけれど。それで、この経典が合って来るわけです。

この経典だけ読んでも、信じて修行したら分かるけれど、科学の文献を読んだらピッタリと合ってくるので、もっと確信に近くなって来ます。



六祖大師＝慧能様の伝説

という事で、お釈迦様の御教えの金剛般若波羅蜜多經、如何にして阿耨多羅三藐三菩提を手に入れるかという事が、私には非常に強烈に入って来ます。さっき言ったように、本当に心から信じる事が大切です。それ無くしては、六祖大師が発生しません。これからそういう方が発生するから。六祖大師という方が出るから、それに依って、沢山の人が救われると。禅ですね。

これを「能生信心」だから慧能になるわけね。能く信じるという事を信心、信心の心を能く持っている方と。だから、智慧の慧に能と書いて慧能でしょう。「能生信心」ここになります。慧能様の事。六祖大師。

この方は一仏二仏三仏どころか、無量千億仏の所で、いつも良い事をしたと。その下でお使いをしておか。で、この人は一念このお経を聞いた時に、一切が分かる方と。実は昨日もお話したでしょう？お母さんが貧乏で、家で動けないけれど、慧能様は山で柴刈って、柴を売って貧しい生活をしていた方なのですね。

その時に、金剛般若波羅蜜多經を耳にした時に、足が動かなくなって、「これは一体どの方が教えているのか？」と。お母さんにお願いして、「これから五代目の弘忍大僧正様に会いに行く」と。そこで受けたわけです。

彼は読み書きも出来ない、一生貧乏で学校にも行けなかった。その時に、神秀という、この方が絶対に代を継ぐ方だと皆思っていた。頭も良いし、字も上手いし、詩も上手いし。「私の体は心の鏡を保つ台であると。その鏡をいつも怠る事無しに綺麗にして修行しましょう」という詩を書いたわけです。

（神秀の詩：身是菩提樹 心如明鏡臺 時時勤拂拭 莫使有塵垢）

ところが、この六祖大師様は字も書けないから、頼んだわけです。「わたしの体という事も無いし、磨くという事も無い。私達の仏性は一切何も持たずこの世に生れ、また去ります」という詩を書いたわけです。

（慧能の詩：菩提本無樹 明鏡亦無臺 佛性常清淨 何處惹塵垢）

つまり、誰を六代目にするかという事で、やっぱり弘忍大師様が凄い方で、もう見えるわけですね。

六祖大師は、修行もさせてもらえない、何もしてもらえない。ただ朝から晩まで食事係。

夜に、弘忍大師様が「よしよし、来い。これはお釈迦様のお鉢、これはお釈迦様の衣」という事が証にあるからね。「これを持って、お前を小舟で対岸の所へ送るから、そのまま山に隠れなさい」と。

まあ、その後、寺では大騒ぎ。この六祖大師＝慧能様がお鉢と衣を盗み出して出て行ったと。「皆で手分けして、探し出して、叩き殺さなければならない」と。全中国探し回ったわけです。「字も書けない者が、認可を受けるわけない」全中国ありとあらゆる所を探したけど、見つからなかった。

16 年間山に籠って。何をしていたかと言えば、狩人の中で一緒に狩りしていた(笑)。まさか、狩人の中に居るとは想像も付かないわけです。で、その後、16 年ちょっと経って、騒ぎも収まって、出て来て、凄いお坊さんが集まる所に出て来て、旗がパタパタパタと風も無いのに動くわけです。「とても驚いて、これはどうした事か！」とお坊さん達が言うわけですね。六祖大師様が「それは、君達の心が動いているからだ」と。ゾクッとして。それを見た方丈（住職）さんが「この人だ！」と。すぐに祭り上げて。最高の位に付けたわけです。

これが六祖大師＝曹溪。この方は曹溪に住んでいたから、曹溪という名前、間があります。で、韓国の方は曹溪宗。そこにお釈迦様の鉢と衣が通度寺にあります。

そういう事を全部話せば、私達衆生は救われやすいわけです。ところが、今話した法華経の話でも、こういう風にされてしまえばね、私達はお互いにあーだ、こーだと喧嘩させられて、もう喧嘩したくないから黙るしかない。隠す事一つも無いのだけれど、こればっかりやるわけ、昔から。

その話がジャータカ物語から見て。ですから、なかなか進まないわけです。こういう話をしなければね、棒読みだったら、私の時間も無駄、あなたの時間も無駄、ただ分かったようで分からない事を頭に入れて、それでそのまま空っぽ。じゃあ、何の為に。それだったら、お茶飲んで楽しく、風呂に入る方がまだ特。

死の直前に涅槃にあげてしまう秘法

何故こういう事がしょっちゅう起こるのかというのは、その昔、お釈迦様が祇園精舎に居た時に、祇園精舎はスダッタ＝アナータピンディカ（給孤独長者）が一生懸命お布施して、金貨を全部敷き詰めて、それをお釈迦様にあげたと。それだけの方だから、死ぬ時に奥さんが来て「私の旦那様が死にます。どうかなんとかしてください」と。お釈迦様がちょうどその時居たから、「よしよし」と。給孤独長者が涙流しながら「本当にお釈迦様へ尽くす事が出来てありがとうございます御座いました。私はこれから去ります」と。という無所得。

「お使い出来てありがとうございます御座いました。」そう言ったおかげで、般若心経の秘法があります、使い方。無余涅槃にあげてしまいます。意義唱える前に送ってしまう。それは法随観をやって空を観て、ずーっとやって行けばこの事が分かるけれど。経典だけでは、お釈迦様が何して何を話しているのか分からない。般若心経の秘法がここにあったのだと。

弘法大師様が七つの時に筵に座って、般若心経をお釈迦さまに教えてもらったけれど、「私はまだ、その域にあらず」と。という事は「300 巻の内、3 巻しかこの日本に持って来ていない」と。「297 巻を君達が手に入れて勉強してください」と。五部陀羅尼經集論で書いています、その事。去年、ちょっと説明したけど、そうでしょう？

結局殆ど核心の所を何も勉強していないわけになります。弘法大師様が「ただこれを信じて、度通してくれ」と。という秘密があります。それが本当の供養であって、お寺でやるお坊さんの仕事。もし、葬式をやるなら。お釈迦様はこれを使って涅槃に上げてしまいました。無余涅槃に。これが本当の供養です。

今、流行りの戒名で、涅槃へ上がらないのです。何百万、何千万円出しても上がりません。ただし、給孤独長者が無所得の心で御布施したというこの一点があるわけです。という事をよくよく分かっているわけです。

だから、しつこい位に、ここに、タンハー＝執着、愛欲とか言っているけれど、この所の所が、私達が永遠に永遠に、グルグルと回りながら、深ーい深ーい地獄の所に落ちて行くわけです。同じ事を繰り返したら。それで、この話が重要になって来るわけです。

雨期になれば、お坊さんは雨期になる前に、大体 500 人一組でインドのあちこちに行くわけです。何故かと言ったら、一ヶ所に居たら、食糧とか大変でしょう？それで、ずーっと乞食しながら、あちこちに行くと。それはインド古来の手法であって、お釈迦様がしたわけではないのです。だから、皆さんがそういう聖達にお布施したら、良い高德が返って来ると。というまじないでしょう？ではなく、そういう事が永遠と続いているわけです。

つまり、特に高德をされたお坊さんという事は、それほど有難い高德がもつと返って来るから。ミャンマーでは誰が一番か？誰だ？と。スーパースターになって、皆その後を付いて行って、もう莫大なお金をどんどんどん布施していますよ。この北伝の經典は一つも読んでいないのに、ここにしっかりと書かれているけど、実際の行動としてやっています。スリランカでもそうでしょう？ただ、何も考えずにお布施しているでしょう。ただ、有難い。有難いと。

アラハトを騙し罵った修行僧コカリア

ある時、シャーリプトラとモッガラナーナが、何時も二人、二人でバナラーシから旅をして、お釈迦様に「これから私は、旅をして、コカリアお坊さんの所へ、その国に行って住みます」と。「よし、そうか。じゃあ、そこに住みなさい」と。二人はそこへ行って、僧院を修理したわけですね。シャーリプトラとモッガラナーナが綺麗に。「ここは素晴らしい所だから、一緒に住んでもいいですか？」と。素晴らしい尊者、エルダー、長老が来て、「どうぞ。どうぞ」と。「でも、あなたがここへ住むことは絶対に言わないで下さい」と。「よし、よし」と言って、そこで三ヶ月暮らした。

その時に、三ヶ月経って、「とても、ありがとう。三ヶ月お世話頂いて。これから、お釈迦様の所に帰ります」と。「あ。そうか、それは残念だ」と、そしてそこに住んでいる村人に対して「君たちはなんて無礼な事をしているのだ。こういう偉大な尊者二人が居るのに、礼も尽くさずに、お布施、食料も、ダーナもしていない」と。村人達は「うわー。そんな素晴らしいシャーリプトラ様とモッガラナーナ様がここに居られたのか！」という事で、もうお布施からお金からどんどん山のように積もったわけです。

ところが、シャーリプトラ様とモッガラナーナ様は「否、これは受け取れない。全て返します」と。というのは、つまりコカリアというお坊さんが一計を企んだわけだ。つまり、この人はアラハト様にこんな事をしたら大変な事になるのが分からないわけです。

品物を置かずに全部返したわけです。寺にも置かなかった。それで、コカリアがとても頭にきて怒って「こんな酷い、人の寺に世話になって何も置いていかない！」と。受ける事を望んでいるわけ。無所得ではない。所得を狙っている。

それで、もの凄い悪口を言うわけですね。「こんな、酷い嘘つきの、無礼な人はいない！」と。そして、その後、他の所に行ったわけですね。村人や町の人には偉い人だからとシャーリプトラとモッガラナーナに持って行くわけです。それは受け取ったわけです。

それを見て、増々頭に来て、今度は、祇園精舎のお釈迦様の所へ駆けつけて行ったわけです。「シャーリプトラとモッガラナはもの凄い酷い男達で、何をするか分からない、大泥棒です」と。そんな事を言うわけです。お釈迦様は「そんな事を言うのは止めなさい」と。それでも言うわけ。三回言ったわけです。お釈迦様は立ち上がって、「もう、聞きたくない。問答する事もない」と言った途端に、皮膚がね、ウジ虫が湧くように、ウワーっと泡が立ち上がって、膨れ上がって、死の苦しみを受けて、門の所に居たわけです。

彼も何か良い事をしているのでしょうかね。お釈迦様の所で修行するという事だから。天界のブラフマーが、最後に、このコカリアに「もう一回心を入れ替えて、そういう事をしないように」と言ったわけです。

そのブラフマーの名前はトゥードゥ。トゥードゥというブラフマー。ブラフマーの世界は色界、私達は欲界。欲界の上に第六天まであるけれど。そのもっと上。楽々の世界。トゥードゥブラフマー様が降りて来て、「今、ここで悔い改めなさい」と。「否、改めません」と言った途端に、最悪の地獄に落ちて行ったわけです。その時の、落ちる前の苦しきは、天界にまで響くような凄い強烈な響きなわけです。

私もカブールで大砲の音を聞いたけど、いや一気持ちの悪い音。ボーンではなくビーン！！という、人を殺戮する音、だから、それ以上の音という事でしょうね。鉄砲の音もパンパンではなくビーン！！ビーン！！という、本当に殺すという音。実際に死んでいるわけです。

そういう恐怖中では瞑想も何も出来ない。だから、日本は天国だと。この天国で一生何をするかと。前にソラさんの話をしたでしょう。五つの子供が観音様を彫って死んでいったと。だから、長く一生を生きても。何も分からない子供でさえ、信仰、絶対信仰で観音様を彫って死んで行ったという事。もの凄く良い所へ行きますね。転生しても、良い大金持ちか、間違いなく。

私の命が全てで、一生を長らえるのは良い事だけれど、長らえた命で一体何をするかという事です。本当のこの短い一生で、法の中で生きるか。法というのは本当の法、今言った、金剛般若波羅蜜多經または般若心經の極意を受け取るかどうか。

字も読める、時間もある。忙しい、忙しい。私の大好きな友人は14の会社を持って、何百億円と動かしているけれど、お医者さんを使って身体が大変なのです。体も動かない。もう、責任があるから抜けられないからね。会社を大きくして行けば、増々。

だから、六祖大師が「この世に、一切何も持たないで来る、一切何も持たないで去る」という事を言っているわけです。だからこの五つの子供が雪の山で、和尚さんが食料を探しに行っている間に、じっと何もしないで死んでいったわ

けではなく、観音様を彫って死んでいった。この子は両親に捨てられて、和尚さんが引き取って。

エチオピアでは食べる事が出来ない老人が、姥捨て山という風な町の中で、ただ死を待っているわけです。その辛さ。隣は病気で老人がジーっと。私のガイドがお金をやったら「ありがとう、ありがとう」と。食べる物も持って来ない。餓死で死んでいくだけ。その目の前は、二か月前、ドアを全部閉めて餓死して死んでいった。その横も餓死で死んで誰も居ない。生老病死、がこの四大、地水火風、ルーパがあるから。物質があるから必ず崩壊へ行くと。

という本当に、この世で私が言った事を心に受け止めて、一人でも涅槃に達したら、これは最高の高德。だから、一生懸命、山の頂上が見える所まで来たら、後は一人で登るしかないです。誰も登らせてくれない。



エチオピアの山

修行僧コカリアの過去世

ま、話を戻しますけど、で、地獄へまっしぐら。お釈迦様が「実はこのお坊さんは、その昔、バナラーシのブラマダッタという王様の所で、宮司をしていたと。宮殿の祭司をしていたと。えらーいチャプリンというのですね、そうい

う方は。」

でも、この人は老いて歯が抜けていて顔は褐色で、ライオンのような肌で歯は一つも無い。で、奥さんが、若いのでしょうかね、他の聖と浮気して愛人もいるわけです。で、奥さんに「止めろ、止めろ」と言うのだけれど、全然止めないわけです。というのは旦那さんが全然ダメだし、こんな歯の抜けた人と寝るわけにはいかないし。

という事で、聖を殺すわけにもいかないし、一計を案じたわけです。「王様、このバナラーシに新しい門を作れば、この町がもっと栄えますよ」と。王様は「よし、よしそうか。で、どうしたら良いのだ」と。「うん、この日にちょうど褐色の素晴らしいブラーミン＝聖（聖というのは人からお布施を受けて、森に住んだりする人ですね）を生贄にして門を建てなければなりません。その日は明日です」「よしよし、そうか。そしたら、すぐ明日実行しよう」と。宮司はうれしくなって、奥さんに「お前の愛人なんて、明日すぐ死ぬ」と言ったわけ。ところが、それをすぐに聖に密告したら、全ての聖がバナラーシから逃げたわけです。で、王様が「褐色の肌の綺麗なライオンみたいな聖を全部集めろ」と。「一人も見つかりません」と。見つかったのは、この歯の抜けた老いた宮司しかいない。「今日やらなければ、大変な事になるから、仕方ない」と。

で、その時、その下で学んでいた方がお釈迦様なわけですね。そのゴータマ菩薩の名前はタカリアという名前で、王様は「タカリア、お前が宮司やれ」と。「チャプリンの褐色の聖、丁度、これを生贄にして、血を流して門の下に埋めろ。もうチャンスが無いから」と。

これは遠い遠い昔の話なのですね。ところが、こういう事は、つい最近のお話しでも、大きい橋や門を造る時には、子供をそこに埋めると。日本でもそうですよ。お城あるでしょう。人柱を建てなければ、お城は建たない。だから私の、津軽の弘前城造る時には、「ああ、あそこには人柱いっぱい埋めた」と。「じゃなければお城は建たない」と。そうなのです。ギリシャでもそうだし、世界中そう。生贄。つい最近でもそうだし、無量遠劫の訳の分からない時空でもそうだし、繰り返しなわけです。何も新しい事はないし、同じ事の繰り返し。「新しい事が起こっている」と。とんでもない。もう文献もいっぱいありますよ。そういう。実際の話。特に子供を生贄にして、大人は死にたくないから。アンデスもそう。アンデスの山に上がってね、子供を神に捧げて。そのミイラが見つかったけれど。

お釈迦様は戦争の大將の首も落とさない。兵士一兵たりとも殺さずに勝ったわけです。兵士を一人でも殺したら、それは失格なわけです。まあ、敵が百万来て、数千人しかなくて、十人～二十人死んで敵を倒したと、これもまた偉業でね。実際にスパルタではペルシャが攻めてきた時に、確か 600 人かな。400

人か。スパルタの兵士が 6 万人のペルシャの兵士を止めて、逆に勝ったわけです。デルタ戦法。大軍が来たらバンバン殺して、戦車みたいに進んで行くから。まあ壮絶な話ですよ。この世界は。相手を殺して。

お釈迦様は一人も殺さずに、マガダ国の大国の王も殺さずに、勝利を収めた。こういう話も伝わっていない。お釈迦様は絶対に人を殺すとかそういう事が嫌いなわけです。だから、菩薩ゴータマ様は「先生、心配しないで。私はあなたの命を助けてあげるから」と。「こう言いなさい。昼は時空が狂っているから、夜になったとそう言いますから。その時に、私は時間が無いから、羊を生贄にしてそこに埋めます」と。

そういう事で、この先生を救ったわけですね。その救われた先生は、シャーリプトラ様とモッガラナ様と偉大な長老たちを罵倒して、「盗人だ」と。お釈迦様は「そういう事を言うのは止めなさい」と。三回言っても、止めなくて、お釈迦様が席を立った瞬間に、もう身体から血は出る膿は出る、強烈な悲鳴が上がったわけですね。

自分の言葉で自分を殺した。言葉でさえ、こうなるのに、もし人に間違っただけの事を教えたり、そういう事を仏法でしたら、している人がいっぱいいるけど。私には分からない。何故するのか？さっぱり分からない。その恐ろしさも分かっていない。もちろん、こういう話を讀んだ事も無い、勉強もしていない、形だけなのでしょうね。

ま、こういう経典いろいろ組み合わせるから、皆さんも頭痛いだろうけど(笑)。すいませんね。

法を理解し、人の為に話した高德は計り知れない

こういう本当の言葉をたった四句でも良いから、理解して、人の為に話した場合には、これは三千大千世界を七宝で埋め尽くす以上の高德があります。全ての仏はこのお経から出ています。

「なんで？このお経はお釈迦様が言った事であって、あるわけない」でも、今言ったように、何回も繰り返す、同じ事。だから、同じお経が出て来る。繰り返しなわけ、繰り返し。

だから、マヤカレンダーあるでしょう。最初確か 7 だったかな？それから 13。大きい歯車と小さい歯車と巨大な歯車の時空、ずーっとクルクルクルクル合わせて、最初に戻るのが、6400 万年。日本の建国が 2000 年？3000 年？。

もう時空でと周って行く必要があるわけですね、この時には何が来るかと。どうなるかと。だから、スパニッシュが来た時には、「この時点で私達の社会は終わるから」と。無駄に抵抗しないで、結局、マヤ文明が凄いのは、時空の事

を良く分かっているのですよ。

結局、アンタカルパ、(寿命が) 10 歳からアサンカラというナンバーがあります。また 10 歳に戻ってくるカルパです。発生する事は、結局、沢山の人が病気で死んでいくという時空に入るわけです。実際に、アマゾンジャングルで、その時に旅行した本当の文献によれば、5 万、6 万のシティーがあちこちにあった。ヨーロッパではイングランドのロンドンシティーがその時、5 万～6 万。一つだけ。

そのスパニッシュの探検隊がもてなしを受けて去った後、アマゾンの人たちが皆ペストだかなんだかで、死んでしまった。という繰り返しのわけです。

この仏教の凄さは、そういう事が起きている事を、ちゃんとお経に書かれてるわけです。この時空にはこれが発生し、この時空にはこうなると。永遠に生きれば、良い事があるどころか、ドラマ法王様が言ったように、そうじゃないと。大変なデストラクション（大破壊）が来るから、如何にして法を得るかという事を学んでくださいと。

つまり、サティパターナ：カーヤヌパッサナー、ヴェーダナーヌパッサナー、チッタヌパッサナー、ダンマヌパッサナーこれを、無余涅槃に入る前に、異空間で四人のお坊さんに教えていったと言ったでしょう？

それが完成しなくても、ただ一心に一心に、どれか一つでも良いから、心を込めて修行して行けば、心からこのお経でも唱えたと、瞑想出来ない場合は「これは何かな？」と思いながら、毎日、神さん、仏壇に頭下げてお経を唱えとか、それだけでも凄い事。良い縁が出来るから。本当の法を知りたいという事で。という事なわけなのです。

仏法は世間の常識とは関係がない

一切の仏はこのお経から出ていますと。全て、このお経によって阿耨多羅三藐三菩提を得ていると。それはどういう事か？これは仏法者という事は、仏法をやるという事じゃないと。

仏法というのはお寺に行って、頭下げて、お葬式して、これは仏法とは関係の無いという事。お祭りじゃないという事。そういう風な定義に当てはまりませんという事。ですから、「一相無相分 第九」と。そういう仏法というのは、想ではなく無想であると。決められないと。

ですから、一人一人のアラハンは一人一人の行によって達成したのだから、これと言ってアラハンになるという情報、定まった方法は無いです。

その前に、アナガミに入らなければならない。そのアナガミに入る時に、先生が質問します。それがどういう事か。これが、チベット仏教の經典の「生死

的幻覚」の中の一番大事な所を先生が質問します。南伝でも北伝でも一緒。密教でも一緒。それで、嘘付いているか本当か判る。何をやったか。そこで嘘付いたら、大変。ま、そういう嘘を付くお坊さんは南伝ではゼロとは言えないけど。タイでも「私はお釈迦様に会って、お話した」と。それでロールスロイス 50 台、ジェット機持ってとか(笑)。お坊さんがいたわけですよ。夜な夜な遊女の所に行って、陸軍将軍の帽子を被って(笑)。

それが、とうとうバレて、何処に居るのか分からない。刑務所に居るといのは分かっている。だから、お坊さんの形して衣着たと言っても、やっぱり、完全に聖者になるという事ではない。いくら叩かれても分からないわけね。

今言ったコカリアさんですか、地獄に落ちたと。いくら叩かれても分からないわけね。当然の事として、その後も、話が続くわけですよ。何故こういう事になったかと。前の話が明快に書かれている。お釈迦様からの御話しです。

普通はね、奥さんが浮気したら、彼が正しくて、浮気した奥さんがダメでしょう？違うのです。心の問題なわけですよ。逆に「よし、ブラーミン、聖を殺してやろう」と言った事で、逆に今度生まれた時、ま、お布施とかそういう事してゴータマ仏陀に助けられて、ゴータマ仏陀の先生だからね。で、ゴータマ仏陀が助けて、また来たら、ここで、自分の言葉で地獄にまっしぐらに落ちて行った。

だから、言葉というのは非常に大切です。特に法を説く時に、体験を基にしないで解説して言った場合には大変な事になります。人間社会の常識と法はまた別ですよ。

天界からの教えがいっぱい来ている

東大寺は律教です。律というのは戒律。南伝では 227。北伝では 250。ここが。またちょっと狂っている。これは変える事が出来ない。何故かと言ったら、お釈迦様が生きている時に出了た戒律だけを基にしているから。227 と 250 では違いがあると。

そこでは律を守るだけが修行です。法とは関係ない。だから、四つの四律という風に別れている。どういう風に戒を守るか。どういう風にして生活するか。四法を得る修行は無し。というのは法を教える方が来ていなかった。それも 1300 年前の話。でも、そういう經典を受け取るというだけでも、こういう凄い世界が出来ているわけですね。

その後、それでも、なんとか高野山に入って山伏になって死にたい、死にたいと言うから、天界からの教えがいっぱい来ていると思う。仏教は人間から人間だけではないのです。天界からも教えが来ます。ただそこは、ただ一つ心だ

け。本当に修行して、本当の事を知って、本当に人の為に、この世の為になりたい。もう命をかけてやるから、天界も、「よしよし」と降りて教えてくれるわけですね。ところが、一般は社会守る為に「足上げた、足降ろした」と。「あのお坊さん、かんざし買った」と(笑)。あるでしょう？そういう事ばかり人間は見るわけですよ。そのかんざしはお母さんに勝ったかもしれないのに(笑)。五つか六つかの子供にあげたかも分からないのに。

人間はそんな事ばかり言っているよ。でも、日本の偉大なお坊さんによってここまで来ている事を忘れないで欲しい。

返り咲いた秘伝、サティパターナ

今度は、一体どういう事が、ソタパナ、須陀カン、大丈夫ですか？スダカン、ソタパナ、このスダカンに成るには、不入色聲香味触法という事を、ナーマルーパを完全に観なきやいけません。それがどういう事に成るかという事を観た事によって、ソタパナの位になります。パオではそれにプラス最終的なナーマルーパを徹底的にやらせて、その後、今度は極秘の行をやらせます。それは私は言いません。それを本当のヴィパッサナー。

こういう事自体も、日本では明快に発表していない。発表しないのは仕方ない。誰もそこに到達していないから。そこまで。パオで教科として教えるのは。その後は、サタガミ、つまり 1 2 マガナーナ、ソタパナ、1 3 マガナーナ、マガというのは法、本当の法、日本語では素晴らしい言葉で書くのだけど、その方に会いました。その方はこっちで知られていない。その方に私が、ヴェーダナーヌパッサナーの秘伝を教えて。だから、ミャンマーには三つの秘伝が返り咲きました。カーヤヌパッサナーはマハーシ、ヴェーダナーヌパッサナーはこの方を通して。それからパオのダンマヌパッサナー。チッタヌパッサナーは韓国、台湾、中国それから、もちろん日本、北ベトナム、南ベトナムは南伝です。

それをキダゴン（期陀含）サカタガミといいますね。キダゴンというのは、もう一回、よくご存じだと思いますけど、もう一回この世に生まれると。で、その次はアナゴン（阿那含）。アナガミといいますね。もう一回生まれるけど、もう帰って来ないと、この地上には。で、その上がアラカン。

本当にどうなったかどうかは、サティパターナでチェック出来るわけです。ダンマヌパッサナーを通過した場合にはチッタヌパッサナーを一年以内に終了すると。次の駄目押しとして、ヴェーダナーヌパッサナーは一週間から 10 日以内に終わると。経典に書かれています。最後のカーヤヌパッサナーは一日で終わるはずと。

実際にそういう事が発生します。だから、自分でやったやったじゃダメなわ

けです。全部通過しなければいけない。で、確定。という事がサティパターナのお釈迦様の言った所に書かれています。四念処。

だから、この日本でこの修行をどうするかが大問題だと思いますよ。経典は修行ではない。経典はコンピューターでもテープレコーダーでも全部記憶させて。それをよくよく理解して、社会に応用する場合は別として、応用出来たら良いけれど。本当にそこまで行くには、瞑想で本当はどうかという事が分からなければ、結局、こういう時空もしっかり解らなければいけないし、現代の超科学ではもう、ほとんどここに近い所に来ているから、宇宙物理学とか。

人間の生命体の不思議さも、ただ地球上ではないわけです。無量遠劫の時間で、これが出来上がっているという事も、おぼろげながらに分かり始めた。

一番大切な事、欲から離れなければならない

どういう風にして阿羅漢になれたか？と。私はお釈迦様のそういう無上三昧に入って、ずーっとサマーディ、サマーディにずーっと入って行って。だから、韓国のお坊さんでも二十日くらい、ずーっとオンドル間座っています。無上三昧、サンマーディ。で、お尻が、気が付いたら、焼けてたと。二十日間座って(笑)。

一番大切なのは、欲という事から離れなければいけない。「私は阿羅漢になりたい」という欲から離れなければいけない。それでなければ、もう失格している。ターナーが発生して、「取」。生きたいという事で次の生命体に入っていく。生きたいという生命体が自動的に発生しますから。この宇宙が潰れても、生きたいと。じゃあ、他の宇宙に行きます。無量無辺の生命体がいるから。尽きる事無し。

では、その上のアラナン・荒難行者、つまり高野山で言う、サドゥーと言ってね、この行をやれば、大体 15 日命が持たないと。寝るときは、墓場の中で寝る。食べ物ももらうかもらわないか。これはね、お釈迦様はやってはいけないとジャータカで述べているわけです。こういうお釈迦様のお言葉と、実際にそれをやって地獄を見たとは私はお話しはず。

だからこのアラナン行の意味が、そういう事に当たるのか。是楽荒難行だから、苦行ではないと思う。ここの辺りは密教のエリアに入っています。これは私には分からない。これは置いといて。崇高なエリアに入ってしまうから。

私達はただただ、ソタパナ入れば合格で、もう落ちる事がないから。でなければ阿弥陀の国に行ければ良いのだけれど。阿弥陀の国にも行くにも、浄土三部経では一億居れば一人か二人しか行けないと言っている。つまり、本当に信心の心がなければ、皆行くわけじゃない。

莊嚴浄土文という事を今から言います。「その昔、私が燃灯仏の所で、実無所

得を得ました。それによって、菩薩になり、莊嚴仏土というものがあるか無いか、という莊嚴仏土というものは無いと。世尊、何故なら、莊嚴仏土は、そういう行をする人は、そういうものに捕らわれないから、この方は莊嚴浄土の方である」と。ま、ちょっと難しいのですけれど。

その心は、ただただ清浄心を発生させる。ただそれだけ。という事は無所得が入らない。という所なわけです。偉いお坊さんだったら、もっともっと詳しく説明するから。ごめんなさいね。荒く荒く話しして。やっぱり、そういう風な色聲香味触法心に捕らわれないようにと。ナーマルーパ、そういう良い音楽、美味しいものとかそういう心にあまり捕らわれないようにと。

「避ける」というわけじゃあないですよ。私も一人で暮らしている時、掃除洗濯全部して買物、庭仕事全部していたらね、もう料理する時間も無いから水一杯でも美味しい。ところが、「それをしろ」というわけじゃないですよ。捕らわれないから、水で我慢すると。それでおしまい。わざとそういう風な行をしているわけじゃない。自堕落だからね、料理するのが嫌いで、バナナをあれば齧るのだけれど、バナナも黄色くなっていないから、クタクタで。

ま、そういう事ですね。食べたい、食べたいとそれだけを一生懸命願って、他の事ほったらかしで、そういう事をしない方が良いよという事。私も俗人だから、美味しいプロシュート作って「あー良かった」と(笑)。でも、ちゃんと食べられますよ。私の家には、その昔作った 25 年物の、オークの樽に入れた凄い葡萄酒がありますよ。25 年物ですよ。ちょっぴりだけ飲ませます(笑)。お祝として。ま、良いですか？

今、何時？21：30！？ウワー。これ、なかなか進まないのですよ。こういう話しているから。でも、こういう話を絡めて行かなければね、結局、砂を齧るような話しになりますよ。あと何日あるの？6 日？なんとか頑張っておしまいにしようと思うけれど、でなければ、カナダに来て、聞いてもらうしかない(笑)。ま、そういう事で。



水源禪師法話集 110

(2019 年 4 月 30 日 山梨法話会 4 日目)

2019 年 7 月 10 日発行

編集兼発行 一乗禅の会

